



講座のアピールポイント

当科の運営方針は子どもたちの未来の為に、小児科学教室全員で力を合わせて栃木県を中心とした皆様に最高の医療を提供することです。

現在、当科ではアレルギー、呼吸器、感染、免疫、血液腫瘍、神経、内分泌代謝、腎泌尿器、循環器、周産期センター新生児部門では、新生児、循環器、先天異常と各々専門的に最新の治療ができるエキスパートがおり、小児科は子どもの全体像を見なくてはならない診療科であるとの認識を持ち、さらに子どもの健全な成長発達を視点におき、患者さんやご家族の立場に立った全人医療を目指しています。紹介患者さんには24時間十分な対応ができる体制をとっており、子どもを総合的に診療しています。

また、当科には専属の3名の臨床心理士がおり、さらに栃木特別支援学校のひばり分教室が病棟内に整備され、小中学校の教員が常駐しています。以上の様に長期入院を必要とする子どものQOL向上がはかられて、治癒後の社会生活に問題が生じないよう配慮しています。

ご両親や兄弟も含めたトータルケアや治療後の長期フォローアップにも力をいれ、アレルギー（喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー）サマーキャンプ、糖尿病サマーキャンプ、食物アレルギー教室では毎年多くの参加者に通常の診療ではできない教育を実施しています。

講座研究紹介

研究と医療は一体であり、研究は大学病院において高度な先進医療を行う上の基盤であると考えています。従って、各部門の研究活動を活性化し、国際的に評価される研究活動を常に目指しています。さらに、小児医学の発展に少しでも寄与できるような研究を行っております。

【アレルギー・呼吸器疾患部門】

アレルギー疾患および呼吸器疾患の病因解明のために国内外の多施設と協力して遺伝子レベルを含めた最先端の研究も行っており、小児アレルギー・呼吸器疾患の治療と研究のメッカの一つとなっています。

その成果として本邦のアレルギー領域では小児気管支喘息治療管理ガイドラインや食物アレルギー診療ガイドライン、呼吸器領域としては小児の咳嗽診療ガイドライン、小児RSウイルス呼吸器感染症ガイドライン、咳嗽・喀痰の診療ガイドラインの作成に寄与しています。

【膠原病・免疫疾患部門】

若年性特発性関節炎や若年性皮膚筋炎などの小児膠原病・リウマチ性疾患に関しては、日本小児リウマチ学会から小児リウマチ診療中核施設の認定を受け、学会と連携して診療・研究にあたっています。

易感染性や反復する慢性炎症を呈する免疫不全症や自己炎症性疾患に関しては、日本免疫不全・自己炎症学会の学会連携施設に認定され、診断・治療に対して、各疾患の専門施設との連携が構築できています。学会の「原発性免疫不全症・自己炎症性疾患・早期発症型炎症性腸疾患の遺伝子解析と患者レジストリ」の研究事業に参加し、保険診療で行えない疾患に関する遺伝子解析や稀少疾患に関する共同研究が可能となっています。

また、免疫不全状態にある小児がん、造血細胞移植、先天性免疫不全症における感染管理や深在性真菌症に関する各種診療ガイドラインの作成に寄与しています。

【血液・腫瘍部門】

血液・腫瘍部門では小児がん連携病院として、小児血液疾患、小児がん研究・診療を担っています。小児白血病・小児がんは数万人に一人しか発症しない極めて希な疾患です。治癒率の向上の為に、他施設との共同による臨床研究が欠かせません。我々は日本小児がん研究グループ(Japan Children's Cancer Group, JCCG)に参加し、小児外科、脳神経外科、放射線科、病理部と連携し治療・診療研究を行っております。

【内分泌・代謝部門】

国際学会・国内学会などに積極的に参加し、臨床経験および臨床研究の結果を発表しております。特に大田原市で取り組んでいる3歳児健診に着目した肥満予防の取り組みは他県に少しずつ広がりを見せ始めています。

【神経部門】

国内外の施設と積極的に臨床研究を行っております。乳幼児期に発症する痙攣重積型急性脳症、けいれん重積に伴う二次性低酸素性虚血性脳症、溺水等については、当院の救命救急センターと協力した集中治療室管理を重ね、世界に先駆けて脳低温療法プロトコルを確立（国内特許出願済）し、世界トップレベルの素晴らしい臨床成績をあげております。

【腎・泌尿器部門】

日本小児腎臓病臨床研究グループ(JSKDC)による多施設共同研究に参加しており、臨床研究の成果を発表しております。